

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名 ：地域高規格道路 阿南安芸自動車道 一般国道55号 日和佐道路	事業区分 ：一般国道	事業主体 ：国土交通省 四国地方整備局			
起終点 ：自：徳島県阿南市福井町小野 至：徳島県海部郡美波町北河内	延長 ：9.3km				
事業概要 ： 一般国道55号は、徳島市を起点に室戸阿南海岸国定公園を経て、高知市に至る延長約201kmの幹線道路であり、高知県、徳島県の産業経済を支える大動脈であるとともに、通勤等、日常生活に欠かせない生活道路としての役割を持つ重要な路線である。 日和佐道路は国道55号の異常気象時における通行規制を解消し、地域の利便性向上などを図り、地域活性化を支援するものである。また、高規格幹線道路網の空白地帯である四国東南地域にとって重要な役割を担う地域高規格道路・阿南安芸自動車道の一画を構成する道路であり、交流連携を支援し、高速性、安全性の確保に資するものである。					
H7年度事業化	H11年度用地着手	H11年度工事着手			
全体事業費 ：約494億円		事業進捗率 ：約99%			
計画交通量 ：12,100～13,400台/日		供用済延長 ：6.2km			
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C： (事業全体) 1.6 (残事業) 47.7 </td> <td style="text-align: center;"> 総費用： (残事業)/(事業全体) 12/584 億円 (事業費：5.5/566億円) (維持管理費：6.2/18億円) </td> <td style="text-align: center;"> 総便益： (残事業)/(事業全体) 555/957 億円 (走行時間短縮便益：481/831億円) (走行経費減少便益：57/90億円) (交通事故減少便益：16/36億円) </td> </tr> </table>	B/C ： (事業全体) 1.6 (残事業) 47.7	総費用 ： (残事業)/(事業全体) 12/584 億円 (事業費：5.5/566億円) (維持管理費：6.2/18億円)	総便益 ： (残事業)/(事業全体) 555/957 億円 (走行時間短縮便益：481/831億円) (走行経費減少便益：57/90億円) (交通事故減少便益：16/36億円)	基準年 ：平成21年
B/C ： (事業全体) 1.6 (残事業) 47.7	総費用 ： (残事業)/(事業全体) 12/584 億円 (事業費：5.5/566億円) (維持管理費：6.2/18億円)	総便益 ： (残事業)/(事業全体) 555/957 億円 (走行時間短縮便益：481/831億円) (走行経費減少便益：57/90億円) (交通事故減少便益：16/36億円)			
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施 交通量変動： B/C=53.7(交通量+10%) B/C=42.2(交通量-10%) 事業費変動： B/C=45.5(事業費+10%) B/C=50.1(事業費-10%)					
事業の効果等 ： 日和佐道路は広域交流基盤となる地域高規格道路「阿南安芸自動車道」を形成することにより、地域の活性化を支援するとともに、都市間の所要時間の短縮や、事前通行規制区間の解消、救急医療や災害時の緊急輸送を支えるなど重要な役割を担う。					
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の渋滞損失時間の削減が見込まれる【約577千人・時間/年→約28千人・時間/年 約95%削減】 ・所要時間の短縮により高速バスの利便性が向上する ・特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる【阿南市福井町～由岐駅：11分→8分】 ・美波町から徳島空港へのアクセス向上が見込まれる【102分→96分】					
②物流効率化の支援 ・美波町から橘港・徳島小松島港へのアクセス向上が見込まれる【美波町～橘港：25分→18分、美波町～徳島小松島港：66分→60分】 ・海部郡における農水産品（阿波尾鶏、伊勢エビ、アワビなど）の流通の利便性の向上が見込まれる					
③国土・地域ネットワークの構築 ・地域高規格道路阿南安芸自動車道として四国8の字ネットワークの形成に寄与する ・日常生活圏中心都市間（阿南市と安芸市）を最短時間で連絡する路線を構成（阿南安芸道路全線供用後）【175分→80分】 ・美波町から日常生活圏中心都市である阿南市へのアクセス向上が見込まれる【25分→18分】					
④個性ある地域の形成 ・徳島県南部運動公園の整備や展開を支援する ・観光資源が多くある県南地域へのアクセス向上が期待される					
⑤安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる【美波町～徳島赤十字病院：66分→60分】					
⑥災害への備え ・現国道55号は第一次緊急輸送道路に指定されている ・現国道55号が通行止になった場合の代替路線を形成する					

- ・現国道55号の防災点検要対策箇所を回避する
- ・現国道55号の事前通行規制を解消する
- ⑦地球環境の保全
 - ・CO2排出量が約1.6千t/年(約1.4%)削減【約117.2千t/年⇒約115.6千t/年】
- ⑧生活環境の改善・保全
 - ・NOX排出量が約58t/年(約94%)削減【約61t/年⇒約4t/年】
 - ・SPM排出量が約5.6t/年(約94%)削減【約5.9t/年⇒約0.3t/年】
- ⑨他のプロジェクトとの関係
 - ・日和佐道路利用により交通安全性の向上が期待できる

関係する地方公共団体等の意見
 地域から頂いた主な意見等：
 ・徳島県や阿南市など周辺の自治体等から、積極的な整備促進について要望活動が続けられている。
 県知事の意見：
 ・この事業は、地域高規格道路・阿南安芸自動車道の一部を構成し、県南の高速道路空白地帯を解消するものであり、県南地域の発展や活性化、また、南海地震対策や救急救命医療のため、本県にとってなくてはならない道路であることから、引き続き、事業を継続し早期供用を図っていただきたい。

事業評価監視委員会の意見
 ・「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。
 ・残事業の12億円に対して、完成までに今後2年かかるというのは、事業費と事業期間が非常にアンバランス。用地の問題とはいえ、効率的な事業展開について今後検討すべきではないか。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等
 ・平成18年3月 日和佐町と由岐町の合併により美波町が発足、海南町と海部町及び穴喰町の合併により海陽町が発足
 ・平成19年9月 県南地域唯一の分娩可能病院の産科が休止、また土曜日の救急患者受け入れも休止となり、医療面の深刻な課題となっている。

事業の進捗状況、残事業の内容等
 平成19年5月に2工区(由岐IC～美波町北河内間)を部分供用。用地取得率はH21.4で約99%。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等
 未供用区間の完成に向け、引き続き用地・工事の推進を図る。

施設の構造や工法の変更等
 PCコンポ橋、プレキャスト製品の積極的な採用等によりコスト縮減を図っている

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由
 以上の事業効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。